

簿記成績47人中45番のアホ学生から 簿記教室の経営者になった男の実話 ～彼女のたった一言から全ては始まった～



執筆：後藤みち男

はじめに

こんにちは、後藤みち男です。
本書を興味を持って読み始めて頂き、ありがとうございます。

私は、茨城県日立市にて、約10年間に渡り簿記教室を経営しております。

創業3年目で、茨城県北の職業訓練校の市場占拠率80%以上を獲得しました。その他、日商簿記検定試験対策講座として、土日祝を中心に社会人向けの自主開催セミナーを行っており、私の動画を観た方が、東京・埼玉・神奈川から茨城まで通学され、その数はライブ講座の半数を超えるときもあります。また、出張簿記講座として、大学や短大、優良企業、商工会さんなどからご依頼を頂いております。

今は簿記講師として活躍しておりますが、実は、私の商業高校時代の簿記の成績は47人中45番でした。惚れた女性の一言をキッカケとして簿記に目覚め、公認会計士を目指して猛勉強しましたが、結局、公認会計士にはなれませんでした。

公認会計士に合格した友人を尻目に20社落ち続けた就職活動、30種類以上のアルバイト経験で家賃1万円の学生寮に住み続けた超極貧生活、岐阜県の山奥で早朝から深夜まで言葉の通じない外国人と一緒にした工業作業、巨額の詐欺事件に巻き込まれ自殺未遂、家賃滞納で遂には水道や電気も止められ大家さんから逃げるために深夜に帰宅する惨めな生活、数え上げればきりが無いほどの失敗と挫折の連続でした。

しかし、人生は面白いものです。底辺の人生を送っていた私が、今や簿記講師として大勢の前で簿記講義・講演させていただいたり、時には120人以上の社員を抱える経営者の方から「後藤先生」と呼ばれてご質問などをお受けしたりしています。

次のページから、私の実話ストーリーが書いてあります。その実話ストーリーから、あなたが何を感じ取られるかは分かりません。しかし、何か一つでも感じとっていただき、明日からのお仕事や人生にお役に立てるところがあれば、とてもうれしいです。

将来、簿記講演会場で、あなたとお会いできる機会があると思いますが、そのときは「あの実話ストーリーを読みましたよ！」と、元気よくお話できれば素晴らしいと思っております。

では、「簿記成績47人中45番のアホ学生から、簿記教室の経営者になった男の実話」のスタートです。

■『簿記2級合格したらデートしてくれない?』

3代目の洋品店の息子として育ち、当時14歳だった私は、洋服は全く興味がなかったが、「洋服は嫁さんに任せて、俺は税理士になって店の帳簿をみるんだ！これなら親も心配することもなくなる。人生、一旗あげるぞ！」と思い、地元の商業高校に入学した。

しかし、その意気込みとは裏腹に、高校では部活とゲームに明け暮れ、商業高校での簿記成績47人中45番だった。もちろん、現役で行ける大学はないので、浪人した。

一浪の結果、何とか入れたのは岐阜の朝日大学だった。大学はどこでもよかった。最初に合格発表があったのが朝日大学だったので、即決したのだ。



大学入学後は学生寮に入ったので、毎日が修学旅行の気分になった。そして寮の先輩や仲間と話をしたり、酒を飲んだり、夜な夜な繁華街にふらふらと出かけたりして明け方まで遊び歩くのが楽しくて、楽しくて仕方がなかった。そんな遊ぶ三昧の日々が続いたため、当然、税理士になるという目標は完全に頭の中から消えていた。

ところがそんな私の人生を変える出来事が起きた。

それは大学1年の10月。

大学の構内でLL教室という映画が自由に観れる施設を発見し、何気なく足を運んだ時のこと。

「ふ～ん、こんな施設があったんや…。全く気付かんかったわ。次の講義まで時間があるし、ちょっと入ってみるか」と軽い気持ちでドアを開けた。

その次の瞬間、受付に座っていたAさんを見て、心に稲妻が走った。

「!!!」

そう、一目ぼれである。まさに秒殺。2秒で殺された。

それから、毎日LL教室に通った。講義がある日もない日も通った。Aさんに会えない土日祝日が一番嫌いだった。色々話しているうちに、大学の先輩だったAさんは、4年連続特体生だったため、受講料免除だったということが分かった。しかも、パソコンや簿記の資格も、自分でアルバイトをして稼いだお金で受講料を支払って勉強して合格していた。

「俺は、何をやっているんだ…。税理士になるために大学に入ったのではなかったのか？それが、勉強もせずに、毎日毎日遊ぶ体たらく。これじゃ、Aさんと全くツリ合わない…。よし、まずは特体生になろう。そして、税理士になる。そのためには、簿記2級に受かることだ！」と決意した。

そこで、今思えば、何て自分勝手な奴だっただろうと思うが、駄目もとでAさんに聞いた。

「Aさん、俺が簿記2級に受かったら、一緒に飯を食いにいってくれませんか？」と。

沈黙が少しあったが、次の瞬間、Aさんが小さな声でこう言った。

「いいよ。」

それはまるで女神の声だった。

私は、生まれて初めてのデートが実現するかもしれないという希望から、最高潮のモチベーションを得た。

それから一日16時間の簿記の勉強をスタートした。トイレと飯の時間以外は机に向かって勉強をした。友人と話す時間さえ惜しんで勉強した。脳ミソがちぎれるんじゃないか、と思うほど勉強した。女神とツリ合う男になりたくて死ぬほど勉強した。

途中、体育の授業中に左膝の半月板を支えている腱が切れ、半月板が左膝の裏側までズレしまい、緊急手術をする大けがをしたが、そんなこともお構いなしにがむしゃらに勉強した。むしろ、「おおっ！これでAさんの家の近くの病院に入院すれば、ひょっとしたらお見舞いに来てくれるかもしれない！ラッキー！」と喜ぶ始末だった。

お見舞いに来た友人は、病室で猛勉強している私を見て「大けがまでしたのに、簿記の勉強やっているなんて、凄い！俺も、何かに打ち込もう。ありがとう！後藤君！」と勝手に感動されたが、当の私は簿記2級試験に合格して、女神とデートすることしか頭になかった。

夜、病室のベッドで布団にもぐりこむと、いつもAさんとの楽しいデートを想像した。想像したらいてもたってもいられなくなり、布団を跳ねのけて再びテキストを取り出して勉強した。

そして、・・・猛勉強のかいがあり、私は簿記2級試験に見事合格した。

いよいよ、人生初のデートの日。

前の晩から興奮して眠れなかった私は待ち合わせ場所に3時間前に着いた。

人を待つ時間がこんなに幸せだということを初めて知った。

そして、Aさんがやってきた。

駅の階段を下りてくるその姿を見たときにこうつぶやいた。

「ほんまもんの女神だ・・・。」

それからどこへ行き、何を話したのか、実はよく覚えていない。

夢のような楽しい楽しい時間。

気がつくともう夜になっていた。

ディナーは地元の定食屋。

二人で2時間かけて唐揚定食を食べた。

そこで、私は人生初の告白をした。

「…、…、…。お、俺と付き合ってくださいませんか？」

勇気を振り絞ってそう言った。

Aさんは顔を真っ赤にして小さな声でこうつぶやいた。

「ごめんなさい。婚約者がいるの…。」

19歳、私の初めての告白は、見事撃沈した。
目の前が真っ暗になった。何も見えない。
周りの話し声が聞こえなくなった。
そして、身体からす〜っと力が抜けていった。

■『社会正義のため公認会計士を目指すも夢叶わず』

それから半年間は腑抜け状態だった。
朝起きても何もする気にならず、何を見てもつまらなくて、何を聞いても頭には入らなかった。寮の仲間も猛勉強して試験に合格した私がなぜ激しく落ち込んでいるのは全く理解できないようだった。

しかし、簿記2級合格と一日16時間の勉強経験という財産は残った。
後から振り返るとこの時の成功体験が、それからの私の人生を変える大きなキッカケとなるのだが、その時の私にはそんなことは分からずただただぼ〜っとしながら学生生活を続ける自分がいた。

大学3年のとき、公認会計士の教授が担当する監査論が始まった。
と同時に、茨城県の竹内県知事がゼネコン汚職をした。

その汚職事件のことを知った私は、
「俺の生まれた故郷で何をしてやがる！許せん！でも、大学生がたった一人意気がっただけでは、世の中何も変えられない。よし！公認会計士になって監査をし、偉くなってから世の中を変える！」
と久しぶりに、身体中の血が騒ぎ、意気込んだ。

そして、監査論の教授に恐る恐る「公認会計士に合格するためには、だいたい1日何時間勉強しなければいけないんですか？」とお聞きした。

すると、教授は私をにらみ、静かに口を開いた。
「公認会計士は難しくて大変だよ、後藤君…。
最低でも1日5時間は勉強しないと駄目だ」

「へっ!？」

簿記2級のときに、多い時は1日16時間勉強していた私は、心の中で、
「へ?たった5時間?2級のときはその3倍やってたよ。思ったより、大丈夫そうだ!」
と思った。Aさんとデートするためにがんばった経験が私を励ましたのだ。

早速、大学の先生のお勧めの専門学校に通学し、再度、猛勉強を開始した。大学3年~4年にかけて、365日中364日毎日10時間以上勉強した。残りの1日は誕生日に39度の熱を出して寝込んだ日。それまでの200人を超える交友関係を一切シャットアウトし、とにかく、勉強した。

それでも公認会計士試験は難関で、1年目は惨敗。しかし、その時、私を簿記1級合格に導いてくれた一冊の簿記の本と出会った。その本で自分が学んだことをすぐに後輩に無料で教えるという学習スタイルを半年間続けた結果、私は見事簿記1級試験に合格し、自信を付け、再度、公認会計士試験にチャレンジした。



公認会計士受験の4年目、答案練習で全国1位も取れるほどの実力がついてきた。周りの人も「後藤君が受からなかったら、誰も受からないよね」と言う。

そして試験当日、自信満々で試験に臨んだ。

「いよいよ、俺も公認会計士か…。社会正義のために、合格するぞ！」

・・・しかし、メンタルが弱かったため、普段は簡単に解ける問題をミスしてしまった。その問題が解けないと、以下の問題にも影響を与え、確実に不合格になってしまうほどのミスだった。

「4年間、この日のために、友人・知人の遊びの誘いも断り、恋人も出来ず、勉強だけしてきたのに…。俺は何やっているんだ！もっとメンタルを鍛えておけば…。あああ！もう遅い…」

と、それまでの勉強の苦労が走馬灯のように頭の中を流れた。気が付くと目からは涙が流れ、解答用紙はびしょびしょに濡れ、破れかけていた。

試験官も私の様子に驚き

「きみ、大丈夫か？」

と声を掛けるほど泣きじゃくっていた。

その後、20代後半まで、通算7回の公認会計士受験を繰り返したが、働きながらでは勉強時間確保が難しく、私の公認会計士試験チャレンジは、実質的にそこで終わった。

それからしばらくは人生の目的も見つからずふらふらしていたのだが・・・。

ある日、テレビのニュースをぼ～っとみながらふとこう思った。

「俺は何をやっているときが一番楽しいんだろう？」

半年間この思いが頭から離れなくなった。一度、考え出すと止まらない性格なため、終いには朝から晩まで考えるようになった。毎日、毎日答を考え続けた。

「俺は何をやっているときが一番楽しいんだろう？」

そして、ある日、ふとひとつの思いが頭に浮かんだ。

「そうだ！大学4年生のとき、後輩に簿記を教えていたときが一番楽しかった。そして、一番輝いていた。よし、それならば簿記教室を創業しよう。35歳までに教室を作る。そして、簿記を学びたい多くの人に自分の知識と経験を教えて、たくさんの希望に満ちた人を輩出しよう。そうだ、商号は…士塾(サムライ塾)だ！士と書いて、サムライと呼ぼう。サムライを育成する学校を作るぞ！」と決意した。25歳のときである。

しかし、現実は甘くなかった。それから、何をやってもうまくいかず、失敗と挫折を繰り返す暗黒時代の20代後半が待っていた。

■『俺の人生、こんなはずでは… (悲)』

それから私は事業資金を貯めるために一般会社の経理への就職活動を行った。

23歳から、専門学校で簿記講師業を経験していたが、25～6歳までアルバイト経験がなく、社会経験なしの若僧を採ってくれる経理部門はほとんどない。

面接を受けては落とされ、受けては落とされ、ついには20社連続で落とされた。さすがに精神も滅入ってきた。



正社員で採用してくれる企業はなく、私はその後30種類以上のアルバイトを経験することになる。警備員、スポーツジムインストラクター、工場作業員、コンサートスタッフ、経理事務スタッフ、日雇いの派遣員、家庭教師、試験会場でのビラ配り、ポスティング、プール監視員、交通誘導警備員、食品加工の仕分作業などなど。

特に、工業作業員のときは、岐阜の山奥で、言葉の通じない外国人と一緒に早朝から深夜まで、ひたすらUF0キャッチャーの機械のねじ打ちをした。一日一万回のねじ打ちで、指がちぎれるほど痛かった。

そんなアルバイトに明け暮れていたある日、公認会計士に合格した後輩と偶然会い、一緒にランチを食べた。それが、私の人生を狂わすキッカケとなった。

後輩との食事が終わり、会計を済まそうと伝票を取ろうとしたら、後輩がサッと伝票をレジに持っていき、会計を済ませた。

私が「俺の分はいくらだった？」と聞いたその後に、後輩から次の言葉が出た。

「ここはいいですよ。分相応ですから。」

分相応？つまり、先輩の私がアルバイト生活で後輩のお前が公認会計士だから、身分が違うということか？

そう思うと腸が煮えくりかえり、目から火が出るほど怒りが湧いてきた。

あやうく殴りかかるところだったが、グッとこらえた。そして、こう誓った。

「みてろよ。俺は簿記1級しか持ってないけど、公認会計士のお前の収入を抜いてやる。この国は資本主義社会や。資格を持っている奴じゃなく、稼いだ奴の勝ちなんや！」と心に決めた。

それからは、カネになる匂いがしたら、犯罪ではない限り、何でもやった。

訪問販売員となり、マンションを片っ端からピンポンと鳴らした。飛び込み営業もやったが、1日で100件中99件は断られ、残り1件は世間話で終わる。ネットワークビジネスもやり、それまで構築した友人・知人がほとんどいなくなった。

しかし、やると決めたら徹底的にやる性格の私を認めてくれた人がいた。

たった2年で全国約45,000人の組織の全国2位になったKさんである。

ある日、ベンツSL600のシルバーで登場したKさんが、私に言った。

「後藤はがんばっている。しかし、やり方が悪い。稼ぎたかったら、俺が直接セールスノウハウを教える。その代わりに、俺の言った通りに動き、365日24時間働け。そして、それを受けるか否かは、今決めろ。即答以外には受け付けない。金持ちになる考え方を徹底的に叩きこんでやる。」と言われた。

私はチャンスと思い、即答した。

それから、Kさんとのマンツーマンのセールストレーニングが始まった。

毎晩100回、壁に向かって、商品の説明を話して暗記する。常に、Kさんに報告・連絡・相談をする。携帯通話料も月に10万円以上となったときもある。とにかく、Kさんのアドバイス通りに実践した。

すると、少しずつ売上があがり始め、月に79万円を手にとることができるようになった。「すげえ！やり方さえ間違えなければ、カネって稼げるんや。これで俺も金持ちの仲間入りや！わっはっは！」と有頂天になった。

しかし、こういうときは、人生は思わぬ落とし穴にハマる。ほどなくして、私を自殺未遂まで陥らせる罠が忍び寄ってきた。

■『620万円の詐欺に遭いウツになる』

ある日、Kさんから「元本の10%の利回りが見つかる投資案があるけど、やらんか？すぐに元本と一緒に回収すれば、儲かるぞ」とお話を頂いた。心から信頼していたKさんのお話だったので、私は即答した。

今思えば、気が狂っているとしか思えないが、至るところから借金し、お金を集めた。総額620万円。当時の私にとっては大金だった。ミスタードーナツでKさんに現金を渡した。Kさん自身も、自分で用意した2,000万円のお金を投資したらしい。

そのお金を、Kさんはある人に渡し、あとは回収するのを待つばかりだった。私は「これで俺も益々金持ちになれるぞ！わっはっは！」と能天気な事を考えていた。しかし、いつになってもお金が返ってこない。

Kさんに電話する。

「お金はいつ返ってくるのでしょうか？返済しないとマズイのですが…」

Kさんは言う。

「もう少しで返ってくるはずだ。少し待て」

「わかりました…」

しかし、一向に返ってくる様子もなく、次第にメールだけのやり取りとなった。Kさんの様子もおかしくなった。

そう、Kさんも2,000万円を騙し取られていたのだ。

私は、Kさんを恨んでいない。365日24時間、私にセールスを教えてくれたからだ。しかし、返金がなく、私は境地に立たされた。

「620万円のカネ、どうやって返すんだ？俺には無理だ。しかし、借入先からは返済要請が来ているし…。どうすればいいんだ…。もう何もかも嫌になった…。いっそ、死んだ方が楽だ…。」と考える日々。そしてウツになった。

生きる気力も失せ、仕事もせず、一日中、街を徘徊するようになった。年金暮らしのヒマつぶしのお年寄りと同じ場所で会うようになった。もちろん、挨拶なんてする気力もない。

「老後って、こんな生活になるのか…」

働いていないので、次第に生活費もなくなり、家賃滞納をした。そして、電気も、ガスも止められた。昼間は大家さんが家賃回収に来るので、アパートに帰るのはいつも深夜。真っ暗な部屋で、一人、どうしようもない現実から逃げたかった。頼る人は誰もいない。いくら考えても打開策が見付からないので、もう死ぬしかないと思った。

そんな時、大家さんのひと言で地獄から救われた。

■『やっぱり俺には簿記講師しかない！』

「もう無理をせずに、茨城に帰った方がいいよ」
大家さんが実家に電話して、私の状況を説明してくれたのだ。

30歳にもなって、親の世話を受けるなんて屈辱的だ…。でも、どうしようもない現実には私は茨城に戻り一からやり直すことにした。
しかし、茨城に戻って実家に居てもどうも居心地が悪い日々が続く。

ある日、子どもの頃よく遊んだ久慈浜海岸に向かった。
朽ちたテトラポットに腰を下ろし、海辺で楽しく遊んでいる海水浴の家族を見ていると、またあの言葉が頭に浮かんだ。

「俺は何をやっているときが一番楽しいんだろう？」

ふと、気がつくともうあたりは真っ暗になっていた。海岸には誰もいない。

「俺は何をやっているときが一番楽しいんだろう？いったい俺が活躍できる仕事はなんだろう？…。そうだ！やはり簿記講師だ。簿記講師が最も輝ける仕事だ！オレは簿記を教えることが好きなんだ。よし、今度こそ、簿記講師として成功しよう！」
そう、決意した。



そして、2004年2月17日の誕生日に、簿記教室・士塾（サムライ塾）が誕生した。創業した途端、長年の夢が叶ったことで、ワクワクが最高潮になった。

創業には多額のお金が必要だと思っていたが、資本金は10万円のみ。たったこれだけで独立できるなら、何でもっと早く独立しなかったんだと思った。

しかし、ワクワクしたのは初めの1週間で、すぐに厳しい現実が待っていた。そう、集客。集客が獲得出来ないと、リピートはおろか、口コミ戦略も使えない。経営の基本は集客に

あることに、すぐに気づかされた。

それから、集客について書かれた本を片っ端から読み、実行→失敗→検証→実行を繰り返した。その中で初めて当たったのは、求人広告の最も小さな広告枠に投稿したゴールデン・ウィーク期間の「3日で簿記3級」だった。

この時の感動は今でも忘れない。結局、3名様だったが、資料請求は11件あった。この時は、初めて自分で集客した生徒さんだったということもあり、「必ず合格させて、次の2級講座に繋げるぞ」と気合いを入れて講義した。

講義も終わり、生徒さんから「簿記って面白いですね。3級合格したら2級もお願いします！」という嬉しいお言葉も頂いた。私も、これ以上教えられないというくらい教え切り、合格を確信した。

ところが！

何と、その時に生徒さんが受験したのが簿記検定至上最悪の全国平均合格率を誇る魔の第107回だった。通常、3級合格率は40%前後なのだが、この時はわずか約13.7%という超難問ぞろい。しかも、水戸地域の合格率は史上最低の約5.7%。もちろん、士塾の生徒さんは全滅だった。

そして、それから約半年間は生徒さんが集まらず仕事が全くなくなった。

「そろそろ、廃業してバイトせなアカンな…」

と思っていた矢先に1本の電話が鳴った。

電話に出るとこう言われた。

「日立商工会議所さんからの推薦ですが、簿記の知識が必要となったので、そちらで講座を受講したいのですが…」

私は、飛び上がるほど嬉しかった。結局、その電話がきっかけで2名の生徒が入塾することとなり、私は必死で講義をした。

後で知ったのだが、その受講生の一人はある職業訓練校の講師だった。私の授業の熱意を気に入ってくれたその方の縁で私は職業訓練講座の簿記講師として招かれることになった。

さらに、その講義内容が口コミで伝わりついには日立・ひたちなか及び水戸の職業訓練校の簿記講座の8割以上を担当するまでになった。

■『塾生から初めてのサムライが誕生！』

職業訓練校で受講した生徒さんの中で講習終了後も士塾（サムライ塾）でもっと学び続けたいという人が増えてきたため、平日の9時～17時は職業訓練、平日の夜のほとんど全てと土曜日の昼から夕方は士塾での日商簿記2級生講座、日曜日は一日中レジメ作りという毎日を繰り返した。

経営者として考えると職業訓練校で受講した生徒さんが、さらに士塾で学んでくれるのだから、無料で見込み客を集めているのと同じである。そのおかげで士塾の売上もどんどん増えてきた。一日9時間の生講座を数ヶ月間連続で続けて、念願の月収7ケタも到達した。

女性からも「一人で夢に向かってがんばっている姿がカッコいいです！」と一年に一人くらいずつ告白され、初めて女性とも付き合った。

「この俺がカッコいい？ 20代はフラれっぱなしだった俺が？んなアホな！
でも、このまま熱心に簿記の授業を続けていけば、生徒さんにも喜んでもらいながら、年収は1,000万円を超える。しかも、人なし・コネなし・カネなしから、たった一人でここまで来たんだ。俺って、凄いな！」
と思いきり勘違いをしていた。

しかし、リーマンショックで資格が欲しいという人が世の中にたくさん溢れていた時期が去り、日本の総理大臣が小泉首相から安倍首相に変わったとたんに職業訓練の数が16分の1になってしまった。そのため、取引先の職業訓練校が次々に倒産し、コバンザメ商法をしていた私も倒産の危機に陥る。

職業訓練講座がなくなり、さらには土塾への集客に悩んだ私は、職業訓練講座以外からの生徒募集を何度も試みたがこれがなかなか厳しかった。
それでも何とか、土日祝の生講座に社会人を集めることで食い繋いだ。

もちろん、授業は真剣に行なった。
毎回、毎回、真剣に、熱く、心を込めて、全精力を注ぎ込んだ。
そして、生徒の会沢英明君がなんと20歳で公認会計士論文式全科目に合格した。

このとき

「土塾（サムライ塾）から一人目のサムライが誕生した。
何か、嬉しいわ…。何か、自分が受かったような気分や…。
本当によかったな！会沢君！！凄いわ！」
と素直に喜べた。

私が自分の教室で気持ちを込めた簿記の授業を行い、指導して、その結果、生徒さんが目標を実現する、夢を手に入れる。
それがこれほどまでに嬉しいことに感じる自分自身にも驚いた。

「やっぱり、俺には簿記講師が最も輝ける仕事なのだ。
土塾（サムライ塾）からもっともっと多くの希望に満ちたサムライを生み出そう。」
そんな思いが益々強くなった。

その頃、新規の生徒募集のきっかけになればいいかな、という軽い気持ちで当時話題になっていたアメバブログ（以下、アメブロ）を始めた。

このアメブロをキッカケにして、私の人生がまた好転し始めた。
まず、ブログで知り合ったのが日本全国で講演家として活躍していた酒井とし夫さん。集客に関することを質問させて頂いたら、物凄く誠実な回答が送られてきた。そして、そのアドバイス通りに実践したら、売上が10倍に！

一気にファンになった私は、酒井さんに直接お礼が言いたくなり、山形県鶴岡市で酒井さんの講演があると知り、茨城県日立市から山形県鶴岡市まで往復12時間かけて講演会に参加した。その後、有料コンサルティングもお願いをした。酒井さんから地元の茨城キリ

スト大学に新設される経営学部の課外講座の講師になれるような戦略を構築するようにアドバイス頂いた。

また、酒井さんがコンサルティングの最後に静かに私に質問された。
「後藤さんがこれから叶えたい夢って何ですか？」

私は思わず

「全国簿記講演家になることです！」
と即答した。実は山形県鶴岡市での酒井さんの講演会に参加した時に、自分もいつか簿記の講師として全国を周りたいたいと思い始めていたのだ。

私の返事を聞いて酒井さんは

「大丈夫。それならすぐになれますよ」
と確信をもった声で言った。

その他、様々な経営戦略を教えて頂いた。たった一人で一億円を稼いだ酒井さんの商売のノウハウをお教えいただき、そのときのスケッチブックをもとに、毎日、経営戦略を立てている。やはり一億円を稼いだ方である。そのとき、経営戦略の重要性を知った。

それから酒井さんに薦めて頂いたランチェスター経営で有名な竹田陽一先生のビジネス教材で経営戦略を学び始めた。さらに日本一取材をするホームページ制作会社の社長として有名な菅谷信一さんと知り合い、菅谷さんが部長を務める同友会に入会し、さらに経営の勉強を続けた。マーケティングやインターネットのこともどんどん勉強していった。

士塾での経営の方向性も固まりつつあった。

・・・しかし、この直後、かつてないピンチが私を襲うことになった。

■『ピンチがチャンスになった』

3月11日にあの東日本大震災が士塾を襲った。

士塾のある茨城県日立市は電気、水道、ガスの全てが止まり、身動きができなくなった。日が経つにつれて、生徒からの受講キャンセルも相次いだ。

「これは、過去に何度も起こった倒産危機のレベルではないぞ…。かつてない、最悪の危機だ…。打つ手はあるのか？」

通常、簿記講座の入塾の3分の2は、その年の3月の申し込みで決まる。

既に申し込みのあった生徒さんのキャンセルも痛かったが、3月に予定していた新規の新規生徒の見込みが全くなくなってしまった。せつかく、生徒募集の戦略的計画を策定して、あとは実行するだけ・・・そんな時期ただだけに、さすがに途方にくれた。

廃業・・・もうダメか。

そんなことを思っていたある日、一人の生徒が士塾の教室に来てくれた。

震災発生からまだ1週間も経っていない時である。道路は寸断され、電車は止まっていた。彼はなんとガソリンスタンドに3時間以上も並んで給油してわざわざ士塾の教室まで車で来てくれたのだ。そして、彼は教室に入るなり私に向かったこう言った。

「後藤先生。僕は先生の簿記講義を受けて人生変えたい。だから絶対に塾を辞めないでくださいね！」

そう言って、彼は今月分の授業料を私に手渡してくれた。

目から涙がこぼれた。
ボロボロとこぼれた。

このとき、

「土塾は俺のものだけではない。塾を必要としてくれている塾生のためにも存在しているんだ。よし。やれるだけやろう。考えられる経営戦略を全部やろう。それで駄目なら倒産だ。やるぞ！やってやるぞ！！」

と決意した。

それと同時に、本当の意味での生徒に対する感謝の気持ちが湧いて出た。

その日から今の自分にできることを全て実行した。

ただただ、がむしゃらにやった。

なぜか分からないけど19歳の時に出会ったAさんの夢を見た。
私が人生で初めて告白をして見事に撃沈したあのAさんだ。

夢の中でAさんは微笑んでいた。

「ああ、やっぱりAさんは女神さんや」

夢の中でそう思った。

そして、その日から人生の歯車がカチッと合いだした。

翌日、私の携帯に1本の留守電が入っていた。

「いきなりお電話さし上げて申し訳ございません。今度、茨城キリスト大学の簿記講師担当するKと申します。後藤先生のブログを拝見させて頂きました。こんなに熱い方が近くにいらっしゃるなんて、嬉しいです。ぜひ一緒にお仕事させて頂きたいです。取り急ぎ、ご挨拶まで」

この電話から地元の大学とのパイプが繋がったのだ。

さらに菅谷信一さんにアドバイス頂いてからコツコツと投稿を続けていたYoutube動画数が1,500件を超え、そこから、私の簿記DVD教材が売れ出した。北は北海道、南は九州から問合せがやってきた。

Youtube動画を観た都心部に住む人からも「後藤先生のライブ講座を受けたい！」という声が届くようになり、ライブ講座の半数以上が都心部からの通学者で埋まりだした。

また、菅谷信一さんにお誘いを頂きセミナーを行い始めたら、セミナー参加者の経営者から企業簿記研修に来て欲しいとのオファーを頂いた。

さらにはあるイベントを通じて累積講演会数7,800回以上のカリスマ講師の清水英雄先生と知り合い、その3ヶ月後にはなんと清水先生とのコラボ講演まで実現した。

人気カリスマ講師と私の合同講演なのだ。念願だった簿記の講演講師への道が開かれた。

講演会当日、会場には大勢の人が集まり、その参加者の中には土塾に通う生徒もいた。



緊張しながらも全力で講演する。
その私を見て生徒が涙を流していたのが、今でも鮮明に目に浮かぶ。

講演後にはたくさんの拍手を頂いた。
その拍手の波に包まれながらあっちに行ったり、こっちに行ったり、上に行ったり下に行ったり、右往左往してきた
今までのことを思い出していた。

そしてこう思った。

「どうやらどこに行っても、何をしても、俺の人生は簿記とは切っても切れない縁でつながっているようだ。

これからも簿記を通してたくさんの人に喜んでもらい、元気になってもらおう。」

会場の一番奥でAさんも微笑んでいた・・・。

人生、諦めずに、楽しく生きれば、過去の失敗や挫折が意味のある偶然の一致として繋がりは始める。

一度これを知ったら、人生のチャレンジを辞められないね！

おわりに

最後までお読みいただき、ありがとうございます。最後にイメージを書きますので、あなたの人生において、何か掴んで頂ければ幸いです。

現在の私の夢・ロマンは、出版です。2012年は2種類の本を出版するのが最大の目標でした。

1つ目は、自費出版で達成しました。このとき、フェイスブックで1投稿しただけで、51冊完売しました。タイトルも、金額も、内容も投稿していないのにです。つまり、私が書いたというだけで売れたのです。心の底から感謝の気持ちが湧きました。

2つ目は、商業出版ですが、現在進行中です。実は、ある出版社の社長から打診があり、既にお会いして、あとは正式な出版契約待ちですが、その出版社の社長の初版の本、それは私の簿記1級合格時の本だったのです！

約20年前、私は、その本で「将来、俺も簿記の本を出版するぞ！」と決意したのです。まさに人生が変わった簿記の本なのです。その本を書いた方と、20年越しでご縁を頂きました。

これがまさに「東の大富豪の教え（ナタリーユエン著・経済界）」にいう、意味のある偶然の一致です。

商業出版が実現すれば、さらに私の人生のステージがあがるでしょう。20代・30代で苦勞した事に、40代の今、それぞれ意味があったということを確認しました。

仮に、20代で公認会計士に合格していたら、また別の人生があっただろうが、きっと私は茨城県に帰ってきていません。ずっと雇われ簿記講師をしていたでしょうし、監査法人から独立する勇気も失せていたと思います。また、大地震がなかったら、ここまで本気で経営戦略の実行をしなかったでしょう。

今、全てが繋がり始めています。

「失敗にはそれと同等かそれ以上の成功の種子が入っている（BY ナポレオンヒル博士）」人生、万事塞翁がウマとも言います。

今後の人生、苦しいことも起こるでしょう。

20代の頃は、苦しいばかりで、それがどう将来の糧になるのかわかりませんでした。

しかし、今は違います。40代になって、それを実感理解しました。

だから、あなたも、夢・ロマンを持ち続け、そして、諦めなければ、きっと実現します。

40代は、引き続き簿記講師を続け、それに応用スポーツ心理学とランチェスター法則を融合させ、世界唯一の、世界一の簿記講師を目指して行きます。

いつの日か、私の簿記講演会場であなたとお会いできる日を楽しみにしています。

あなたも、私も、ふぁいと！

■プロフィール： 後藤充男（ごとうみちお）

日本一を目指す簿記教室・士（サムライ）塾 塾長

昭和47年生まれ。朝日大学・経営学部卒。

資格は日商簿記1級及び公認会計士試験（旧短答式）。

サムライ流！スパイラル・ツリー簿記学習法の創始者。大手簿記学校の講師を経て、2004年2月17日に「日本一を目指す簿記教室・士（サムライ）塾」を創業し、現在に至る。



業界キャリア17年間で1,500名を超える受験簿記指導実績有り。独立8年間の実績は、日商簿記1級5名・2級57名・3級109名。

その合格指導実績等から日本商工会議所の検定本部長の表敬訪問先に指定される。

（独立した2004年2月17日から講師実績）

＜主な研修講師実績＞

- ・(株) ヨークカルチャー日立（日商簿記3級およびビジネス簿記講座）
- ・(株) 読売文化センター水戸（日商簿記1～3級講座）
- ・(株) オートソフトネットワーク（委託訓練コース・パソコン会計科および若年者訓練コース・パソコン簿記科）
- ・(有) 水戸法律センター（元LEC水戸駅南校）（委託訓練コース・財務会計パソコン科、若年者訓練コース・財務会計パソコン科およびライセンスコース・日商簿記1級～2級講座）
- ・(株) ひたちなかテクノセンター（委託訓練コース・オフィスビジネス科、新会計基準セミナー・新入社員経理セミナー）
- ・県立水戸産業技術短期大学（情報処理科・会計学講座）
- ・(株) 文化メディアワークス（委託訓練コース・パソコン会計科）
- ・(株) 幸田商店（経営幹部のための簿記研修および管理会計研修）
- ・つくば研究支援センター（簿記3級入門の入門セミナー）
- ・茨城キリスト大学・課外簿記講座講師担当
- ・福島県いわき市・大型ショッピングモールの鹿島ショッピングセンター（店長のための簿記入門セミナー）

＜主な講演講師実績＞

- ・2011年7月7日「経営は集客できないと始まらない」を茨城県中小企業家同友会・日立支部
- ・2011年9月「社長のための簿記入門の入門講座」を茨城県中小企業家同友会・日立支部
- ・2011年10月「社長のための管理会計入門講座」を茨城県中小企業家同友会・日立支部
- ・2011年12月4日「ありがとうフェスティバル in 日立」を清水英雄氏とコラボ講演
- ・2012年2月7日「ビジネス大逆転 夢・経営計画セミナー」を栢野克己氏・今瀬保男氏・菅谷信一氏とコラボ講演
- ・2012年3月13日「社長のための簿記入門の入門講座」を茨城県境町商工会青年部

＜新聞掲載実績＞

- ・2011年12月4日「ありがとうフェスティバル in 日立」が毎日新聞に掲載。以上

◇連絡先:

日本一を目指す簿記教室・士(サムライ)塾 塾長 後藤充男

〒319-1221 茨城県日立市大みか町 2-25-6

TEL&FAX 0294-52-3450

Eメール:info@samurai-mr1.com

HP:www.samurai-mr1.com

ブログ:<http://ameblo.jp/misuta-1/>

Facebook:<http://www.facebook.com/goto.michio>